

だれにも気さくに こころ強い相談相手

安来
市議選
2021年
10月

子どもからお年寄りまで大切にする安来市へ

日本共産党 元安来市議会議員

河津 きよし 69歳

Profile・プロフィール

■1952年 宇賀荘町で生まれる ■安来高校卒。島根県信用農業協同組合連合会勤務を経て、1997年10月に安来市議初当選(4期務める) ■松江労働者演劇協会運営委員、宇賀荘小学校PTA会長、宇賀荘スポーツ少年団団長など歴任 ■現在、県農民運動連合会副会長 ■趣味は山登り、水彩画



(河津きよし・本人作)

新型コロナから1年半。医療や介護への予算を削りに削ってきた政治。正社員を非正規に置き換え、高学費やジェンダー不平等社会を放置してきた政治によって、多くの命が奪われ、暮らしが危機にさらされてきました。

島根原発再稼働、気候変動による災害…。住民の命と暮らしに責任を負い、どう守るのか——政治・政党に問われています。

地方自治体には住民の命と暮らしを守る責任があります。みなさんの声を市政に届けたいと再び決意しました。ふるさと・安来市のために頑張ります。よろしくお願ひします。

コロナ、災害から命を守ることを最優先に — 私たちも力を合わせて頑張ります —



前衆院議員
(比例中国・名簿登載予定者)
大平よしのぶ



市議会議員
向田さとし



私は今期で退きますが、河津さんを支えて頑張ります。安来のために市民の願いをまっすぐ市政に届け、実現に力を尽くす河津きよしさんを必ず市議会へ送ってください。

市議会議員
原田貴与子



「国民の苦難の軽減」が日本共産党の原点です

どんなお困りごとでもお寄せください。心ひとつにのりこえましょう。

日本共産党東部地区委員会 TEL: 0852-24-2456 FAX: 24-2430 E-mail: toubu-jcp@mable.ne.jp

安来民報

2021年8・9月号外 発行：日本共産党安来市委員会 TEL0854-22-5828

河津きよしの人柄と実績・政策をご紹介します。

日本共産党を伸ばして実現しましょう

コロナ対策の充実

新型コロナへの市の独自対策を

- 飲食店、小売店、農家、観光業など収入が激減している事業者への支援を
- 病院や介護、福祉施設の収入減への支援を
- 小中学校、保育園の給食費を無償に
- 教員を増やし、子どもたちに少人数学級を

くらし・子育て応援

医療・社会保障の立て直しを

- 公立・公的病院の縮小・統廃合計画の中止
- 安心できる“減らない年金”を
- 子どもの医療費は18歳まで窓口完全無料に
- 若者の正規雇用の促進と給付型奨学金制度の創設を

災害対策の強化

島根原発再稼働ストップ！

- 公共事業を防災・減災事業最優先に
- 「3密」回避のための避難所の機能・環境改善を
- 被災者生活再建支援金を300万円から500万円に引き上げるなど、生活と生業再建への支援強化を

消費税5%へ減税

中小業者、農林漁業者応援で景気回復

- 消費税の減税、コロナ自粛要請と一体の補償を
- 農林水産業、地場産業の振興



県農民運動連合会で米価下落対策を求め
県要請(2020年7月16日)

キラッと光る！！ 日本共産党市議の活動

みなさんと力を合わせて取り組み実現

- ☆ 中学卒業まで子どもの医療費を無料に
- ☆ 小中学校へのエアコン設置
- ☆ 就学援助制度の入学準備金の補助額を2倍に
- ☆ 国保税、介護保険料の値上げなど反対 など

あなたの「SOS」にこたえて

ワクチン接種や給付金の相談など声を聞き、心を寄せ、ともに解決する。そして、負担増から市民のくらしを守り、願い届ける。市議4期・経験豊富な河津きよし元市議を10月の市議選で再び市政へ。



すぐに現場に駆けつけ、要望を聞き届ける

“住民に奉仕する”が私のモットーです

7・8月の豪雨災害では、県にも申し入れ

7・8月の豪雨では、河川の水位上昇による浸水被害、裏山崩壊による家屋の損壊、道路・河川の崩壊など、安来でも多くの被害をもたらしました。

河津元市議は現場に駆けつけ、被災者からの要望や被災状況を確認し、県にも「最大限の支援を」と申し入れました。

写真は、県議とともに県へ申し入れる河津元市議(右端)。



河津きよしの歩んだ道

仲間と励まし合い野球部再建

農家に生まれ、小さい頃から農業の手伝いをしながら育ちました。

安来高校では、休部となっていた野球部の再建に取り組みしました。スタートは5人。家庭訪問をして部員をつのり、何とか再建。夏の大会では、初戦コールド負け。それでも、仲間との熱い友情は、今も続いています。

労働組合運動の中で入党

高校卒業後、県信用農業協同組合連合会に就職。労働組合運動に参加する中で、社会党(当時)一党支持の押しつけに異議を唱えたものの、受け入れてくれない組合幹部に不満を抱いていました。その時、先輩党員が学習運動に誘ってくれ、社会のしくみを学ぶ中で反戦平和をつらぬき、平等で自由な人間関係をめざす日本共産党を知り、1972年12月、20歳のとき入党しました。

“農業とスケッチ”をこよなく愛す

県農民運動連合会の副会長として県内の農家の経営や暮らしの相談に乗り、農業の守り手として奮闘してきました。最近では、気に入った風景のスケッチを楽しんでいます。

